

お勤め お迎え の死生観は何処へ

オイスカ会長 渡辺 利夫



つい先だってまで、死は日常的な出来事だった

そういう光景のいくつかを思い起こすことができる。

いつの頃からであろうか、自宅で死亡する人間は稀れとなり、現在では8割前後の人々が病院で亡くなっている。葬儀などは、大抵が〇〇葬儀社と名付けられる専門業者が取り仕切る。超高齢化時代の次にやってくるのは、まさきもなく超高齢者の大量死の時代である。それを見越してのことなのである。無数的大小の葬儀社のサイトがパソコンに掲載されている。

私どもが子供の頃、多くの人々にとって死はきわめて日常的なものだった。大抵の身内のお年寄りや自宅でも結核などで死んでいく者が少なくなかった。今では信じられないことだろうが、蛔虫のような寄生虫で死んでいった級友のことが思い出される。

死者が出ればその家の隣近所の人々が集まって葬式をあげ、菩提寺へと棺桶を担いでいって土葬をするというのが普通だった。私も

「わたしは、1939年6月甲府市生まれ慶応義塾大学、同大学院修了。経済学博士。筑波大学教授、東京工業大学教授、拓殖大学総長を経て、オイスカ会長。外務大臣表彰。正論大賞。著書は『成長のアジア 停滞のアジア』(吉野作造賞)、『開発経済学』(大立正芳記念賞)、『西太平洋の時代』(アジア太平洋賞大賞)、『神経症の時代』(開高健賞正賞)、『決定版・脱亜論』(放哉と山頭火 死を生きる)など多数。

呼び覚まされる死の観念

アンチエイジングと自己欺瞞

であろう。この自己欺瞞は増殖を続け、際限のないものへと変化しつつある。こんなにまで死というものがはるけくも遠い存在へと追いやってしまった時代はかつてなかったのではないか。

「人生100年時代」などと、ほとんどの人間にとってはあるべきでないようなことを、なんと厚労省が口にするまでに至った。まともな人間であれば、そんなバカなとは思っても、政府までがそのように言うのだから、まるで嘘だというわけでもあるまいと、つい思ってしまった。いなか権威ありそうな先生方を集めて「人生100年時代構想会議」なるものを組織し、人生100年時代を見据えた経済社会システムを創り上げるための政策のグラウンドデザイン」を検討中だと厚労省のウェブに掲載されているではないか。

浅薄なものである。死を忌避し、これを遠くに追いやらんと必死である。かつては「老人病」といわれてきた高血圧、脳卒中、心臓病、癌などのいわゆる慢性疾患は「成人病」といわれるようになり、ついには生活を正せば病に罹患しなくても済むかのような「生活習慣病」と称されるに至り、この呼び方が定着してしまっただけでなく、この「自己欺瞞」と言うの

アンチエイジングという医療分野までがある。いくつかの医療機関のウェブサイトを開いてみると、多くの総合病院で「抗加齢ドック」なるものを導入していることがわかる。日本抗加齢医学会という団体がその導入を全面的に支援していると書かれている。そこでは抗加齢医学を次のようなものとして定義している。

「抗加齢医学(アンチエイジング医学)とは、加齢という生物学的プロセスに介入を行うことで、健康寿命を延ばすこと」

い、加齢に伴う動脈硬化や、癌のような加齢関連疾患の発症率を下げ、健康寿命を延ばす医学である」

へえ、そんな医療分野があるのか。これだけの超高齢社会になっても「加齢関連疾患の発症率」をさらに引き下げることが可能なのか。こんな医療分野があって、その医師の学会まで存在するといふのだから、それだけで日本人の長命願望が強いことの表れなのか。

先が、彼の時代とさして変わらないというのでは、なんとも情けない。思想の貧困を絵に描くかのごとくである。こういった抗加齢医学の方針を、厚労省が医療保険機関に義務づけ、これを「相談型指導」から「介入型指導」への転換だと自負しているらしい。

健康や長寿は、これをいくら追い求めてもきりというものはない。私どもが「生老病死」というライフサイクルの中で生きざるを得ない以上、健康や長寿を追求すればするほど逆に健康の観念に呪縛されて、授けられた生をまっとうできなくなるのではないかと。健康というものは、これを追求すれば追求するほど、「死の観念」が人間を扼えてしまう。人生の「背理」である。

「抗加齢医学(アンチエイジング医学)とは、加齢という生物学的プロセスに介入を行うことで、健康寿命を延ばすこと」

「人生100年時代構想会議」なるものを組織し、人生100年時代を見据えた経済社会システムを創り上げるための政策のグラウンドデザイン」を検討中だと厚労省のウェブに掲載されているではないか。

「人生100年時代構想会議」なるものを組織し、人生100年時代を見据えた経済社会システムを創り上げるための政策のグラウンドデザイン」を検討中だと厚労省のウェブに掲載されているではないか。

「人生100年時代構想会議」なるものを組織し、人生100年時代を見据えた経済社会システムを創り上げるための政策のグラウンドデザイン」を検討中だと厚労省のウェブに掲載されているではないか。